

3

Karen lost her parents to disease when she was a small child and was living together with her grandmother. Karen's grandmother took great care of Karen and taught her a lot of things like reading, writing as well as sewing.

Then, Karen's 15th birthday came.

In this country, there was a tradition to hold a celebration ceremony at church when one turned fifteen. As Karen was told that her grandmother will buy her new clothes and shoes for the ceremony, she was excited to go out for shopping with her grandmother in a carriage.

Karen was looking at a wide variety of shoes in different colors, displayed on glass shelves.

Then, she stumbled upon bright red enamel shoes. Karen felt a mysterious charm from the shoes and she got her grandmother to buy them for her.



5

On Sunday, Karen put on her newly bought red shoes and headed to church.

There were a lot of people gathered at the church. As soon as Karen got off the carriage, the people looked at Karen's red shoes and said,

"Oh dear, she came to the church with red shoes on. She is such a peculiar girl."

"I have no idea what's the meaning of that..."

Karen didn't know there was a tradition that people must wear black shoes when entering church.

Karen's grandmother didn't realize the shoes' color due to her poor eye sight.

(Everyone's looking at my red shoes. They must be thinking my shoes are pretty.)

Karen wasn't aware that the people were actually watching her with disapproval.



カレンは、ちちおやと ははおやを はやくに びょうきでなくし、おばあさんと ふたりで くらしていました。おばあさんは、カレンを ほんとうに かわいがり、よみかきや、さいほうなども おしえてくれました。

やがて、カレンは じゅうごさいの たんじょうびを むかえました。

このくにでは じゅうごさいに なったら、きょうかいへ いった おいわいの ぎしきを する しゅうかんがありました。おばあさんが、おいわいの ぎしきで きる ふくや くつを かってくれると いうので、カレンは むねをはずませて、おばあさんと いっしょに ばしゃで かいものに 出かけました。

まちで いちばんおおきな くつやの てんないで、カレンは ガラスのたなに ならべられた、いろとりどりの くつを ながめていました。

ふと カレンのめに、まっかな エナメル の くつが うつりました。その くつに、なぜか ふしぎな みりよくを かんじた カレンは、おばあさんに たのんで、このくつを かってもらいました。



にちようびになり、カレンは さっそく かったばかりの
あかいくつを はいて、きょうかいへ むかいました。
きょうかいには、すでに たくさんの ひとが
あつまっていました。ひとびとは、ばしゃから おりた
カレンの、あかいくつを みて いいました。

「まあ、きょうかいに あかいくつを はいてくるなんて、
どうかしてるわ」

「いったい なにをかんがえているの かしら・・・」

カレンは、きょうかいに はいるときは、くろいくつで
なければ いけないという しゅうかんを しりませんでした。
いっしょにいた カレンの おばあさんも、めが わるくて、
くつの いろを みわけることが できなかったのです。

(みんな わたしの あかいくつを みている。
どう、すてきでしょう?)

カレンは、じぶんが ひなんのめで みられていることに、
きづきませんでした。

